

■「大きな土地」で国づくり■

ほぼ週刊【松村拓也のメールマガジン】第 078 号

こんにちは、松村拓也です。

E-Mail と Facebook で松村拓也の活動についてほぼ毎週お届けしています。

名刺交換した方や、突然思い出した方にもお届けしますので、ご迷惑であればお知らせください。

できれば勤務先でなく、個人のアドレスにお届けしたいので、ご連絡ください。

ご意見、ご質問大歓迎です。

.....

078 目次

1. トピックス：「大きな土地」で国づくり
2. まつむら塾だより
3. リリース：発信情報から
4. スケジュール：今週のご案内
5. アクセスポイント：問い合わせ先
6. このメルマガについて

バックナンバーはこちら

<http://nanoni.co.jp/category/p9/>

.....

1. トピックス：「大きな土地」で国づくり

先日、NHK の特報首都圏「本気で社会を変えたい～“ソーシャルイノベーター”たちの闘い～」を見て、心に着火する音が聞こえました。やはり僕の活動は、そろそろ表に出て社会を巻き込んでいく段階に、進むべきだと思ひ立ちました。今日はさっそく Facebook で勝手に宣言し、まずは身近なキーパーソンに連絡をして導火線に火をつけました。まずは、僕の目指す「ソーシャルイノベーション」について、簡単な説明を試みたいと思います。もちろんそれは、土地資源の活用に関する革新です。あまり長文にならないよう頑張りますので、お付き合いください。

いま日本では、行政主導の社会改革が行き詰まり、民間主導への移行が急務です。ところが、新たな事業を生み出すのに不可欠な「制約のない自由なチャレンジができる場所」がほとんどありません。そもそも公有地は、私的な生活や事業の場ではありませんし、民有地の多くは誰かに占有され、使われていなくても入ることすらできません。そしてもし、使えたとしても高い場所代を支払った上に制約だらけで、自由なチャレンジなどできません。これが僕の問題提起です。儲かるビジネスだけが高い家賃を払って一等地に店を構え、さらに大きな利益を上げていく一方で、利益の少ないビジネスはいつまでも物陰の小さな部屋でひっそりとやっていくなんて、僕には納得できません。なぜなら、今場所は、そこらじゅうで有り余っているのだから。

そこで、「大きな土地」の所有者に呼び掛けて、自由なチャレンジに対し、余った場所を開放したいと思います。

そして、個人のビジネスの創出や生活の再建、社会参加の促進など、行政が担うことのできない「民有地でのくにづくり」に挑むのが、僕の提唱するイノベーションです。考えてみると、江戸時代までは諸国の大名が与えられた領地から得られる資源だけで国を作り、経営していました。すべての地域に中核都市を拠点とした自立経済があり、ほとんどの藩は助成金をもらうどころか、逆に多くの資金や役務を上納していたわけです。現在都道府県庁所在地となっているような地方都市の豊かな個性は、その地域で調達できる資源を使って独自の発展を遂げたからに他なりません。正確には領主が領土を所有していたわけではないにしろ、自由な裁量で土地という資源をフルに活用していたのは間違いありません。地域再生など、官主導でいくらやってももちが明かないのは、そもそも土地所有者主導で行うべきことなのかもしれません。

やがて列強諸国の侵略に対抗する富国強兵の実現のため、明治維新を経て、日本は一元統治をおこなうようになりました。しかし、民有地の所有は民主化の名のもとに細分化が進み、個人所有者の裁量に任され、自由に売買されるようになりました。これが、経済成長の原動力となったことに疑いの余地はありません。しかし、成長が鈍化し土地価格の上昇が終わったところで、土地所有者たちはこれを持て余すようになりました。振り返ってみれば近代以降「国づくりは政府の仕事」よなり、誰も「民間による国づくり」を考えも学んでも来ませんでした。現在の日本には、土地所有者の権利や義務について定める法律はなく、土地所有者を管轄する官庁も存在しません。民有地所有者が、「所有権を放棄(売却)せずに行使する術」を知らないのは無理のないことかも知れません。

僕は、起業支援活動の中で田名夢子氏と出会い、このことに気付きました。「自分の土地をどうしようと自分の自由のはずなのに、そのやり方について相談に乗ってくれる人がどこにもいない」というのです。そこで田名氏は、これを起業と位置付け、僕のもとを訪れました。笑恵館という事業の核心は、永続的な事業にするために、法人に所有権を移転し、所有者が不死身になるということです。そのために、二人で日本土地資源協会という一般社団法人を設立し、現在笑恵館の所有権をこの団体に実質無償で貸与しています。つまり、僕も団体メンバーとして所有当事者になったわけです。現在笑恵館の運営は、この協会が中心となり、有志のメンバーが相談しながら決めています。笑恵館という小さな国を、小さな政府が治め始めているんです。

この経験から現在二つの事業を展開しています。一つは笑恵館周辺エリアでの住み開きの推進。住宅の空き部屋を住みながら開放して、所有者だからできる新たな活用法を模索しています。そしてもう一つは、名栗の森オーナーシップクラブ。オーナーシップクラブとは「会員制の土地所有」のことで、これまで放置されてきた個人所有の山林を、クラブのメンバーになることで所有者として利用できる仕組みです。これらはいずれも、メンバーが所有者の裁量を付与されることで、自由な土地利用を実現する試みです。こうした活動を通じて、僕の提唱するイノベーションの実現に向け、確かな手ごたえを感じています。

そこでいよいよ、この提案をわかりやすくまとめて、「大きな土地」の所有者に届ける段階を迎えました。しかし、こうして書いた文章を読み直してみると、まだまだ分かりにくく、前途は多難です。きっと、これを打開するにはもう自問自答はやめ、様々な人たちに実際に問いかけ、意見を聞くことだと思います。そう、今日はこの結論を書きたくて、手探りで説明を試みました。せっかく「大きな土地」を持っているのに、それを生かしきれずにいるなんて悔しいことだと思います。土地は「国づくりの資源」です。ご自分の土地を使って、何かをやりたい方。何かを実現するために、「大きな土地」のオーナーを口説きに行きたい方。「大きな土地」に特段の定義はありませんが、もったいないと思えば、それが「大きな土地」だと思います。

皆さんからのご意見お待ちしております。

そして、こちらからもアクセスしますので、その際はどうぞよろしく！

.....

## 2. まつむら塾だより

### ■リアルまつむら塾

今後の開催予定：10/28(金)、11/1(火)、11/10(木) いずれも 19-21 時 笑恵館にて

### ■オンラインまつむら塾 <https://synapse.am/contents/monthly/m-juku01>

#### A11\_5. だれ(who)という疑問

どこ(where)は空間、「どこ(where)」が問う空間とは、「あなたのやりたいこと」を映画に例えるなら、シーンや状況設定のこと。この世界の中の一部の場所やモノを選び、それらと私たちの関係を説明するための疑問です。その代表が、「外」と「内」、そしてその境界の「かたち」の 3 種類で、私たちはその内側にいるときは「空間」と呼び、外側にいるときは「モノ」と呼びます。…続く

現在：RAM 会員 3 名

.....

## 3. リリース：発信情報から

### ■公開イベント

11/15(火) SHINCLUB 展

<http://www.hikarie8.com/court/2016/10/shinclub.shtml>

1999 年の倒産を経て、僕が立ち上げた「株式会社辰」という建築屋の月刊広報誌が 200 号を迎えるのを記念して、渋谷ヒカリエで公開イベントを行います。

13:30~15:30 は 200 回分の展示・相談会、16:00~17:30 は僕が建築家の團紀彦氏と対談するトークイベント。お時間のある方は、是非お立ち寄りください。

### ■ブログなのに

「大きな土地」で国づくり

<http://nanoni.co.jp/20161017-2/>

.....

## 4. スケジュール：来週のご案内

凡例 □面談歓迎：仕事してありますが、あなたのアポを優先します。

■同行可能：よろしければ、僕の訪問先にお連れします。

★参加可能：僕の参加予定イベントで、あなたも参加可能なもの

.....

(月) 10/24 □作業日

(火) 10/25 □午後から、笑恵館で面談可能

17-19 時 ★笑恵館運営会議（笑恵館）

[http://shokeikan.com/info/office\\_mtg](http://shokeikan.com/info/office_mtg)

（水）10/26 □作業日

（木）10/27 □16:30 まで、笑恵館で面談可能

（金）10/28 □午後から、笑恵館で面談可能

19-21 時 ★まつむら塾（笑恵館）

<http://nanoni.co.jp/progrum/p01/>

（土）10/29 □休業日

（日）10/30 □休業日

今週末に企てていた「激安ベトナムツアー」は残念ながら行けなかったもので、一応休業日とし、作戦を練る時間  
にしたいと思います。

例によって、相談のある人、一杯やりたい人、歓迎です。

松村の予定はこちらで公開しています。<http://nanoni.co.jp/schedule>

.....

## 5. アクセスポイント：問い合わせ先

松村拓也

メール [takuya@nanoni.co.jp](mailto:takuya@nanoni.co.jp)

携 帯 090-9830-3669 [taku8823@ezweb.ne.jp](mailto:taku8823@ezweb.ne.jp)

自 宅 株式会社 なのに(平社員)

〒226-0016 神奈川県横浜市緑区霧が丘 3-15-1

<http://nanoni.co.jp/>

職 場 一般社団法人 日本土地資源協会(代表理事)

<http://land-resource.org/>

笑恵館 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-27-19

<http://shokeikan.com/>

メール配信をご希望の方はこちら

<http://land-resource.us10.list-manage.com/subscribe?u=800df08672d8b31689226516d&id=df33ae0ce9>

フェイスブックグループはこちら

<https://www.facebook.com/groups/atamanonaka/>